

東日本大震災 沢山のお見舞い・激励を有り難うございました

被災された会員の皆さんからお礼のメールや手紙、電話が届いております。代表で岩手県大船渡市黒田さんからの手紙をご紹介します。

新住協事務局
会沢様

さくらの花も観ること無く、瓦礫の山にため息ばかりで時を過ごして、いつの間にか若葉が美しい季節となりました。

会員の皆様ますますご清樺のこととお喜び申し上げます

この度の東日本大震災においては会員の皆様からの沢山の支援物資を頂き本当にありがとうございました。改めて新住協の和、心の暖かさを感じております。

私の住む大船渡市の越喜来地区は人口2,500人の小さな町ですが、70名の方が犠牲になりました。私の親戚も7名が津波の犠牲になりました。自分の被災状況はアパート(北墨大学用)3棟(17世帯分)、弟、そして妻の実家の家が土台だけを残し波にさらわれてしまいました。幸い人が無事だったこと、自宅と作業工場の被害が無かったことがなによりと思っております。

震災の日から我が家は一時避難所として親戚、友人、学生等20名の生活が数日続きました。

被災のショックからか、一時は体調を崩しましたが今は以前のような生活を過ごしております。

これから微力ながら町の復興に頑張っていきたいと思っております。

会員の皆様には過分のご支援を頂き本当に有り難うございました。

岩手県大船渡市 黒田工務店
黒田喜一

4月20日宮城県気仙沼市唐桑町訪問時の写真です(岐阜支部 金子一弘、横井辰幸さんと支援物資配送)。壊滅した町内の事務所跡地に小屋を建て、復興に立ち上がった熊谷悟さん((有)かねき建設)の姿が印象的でした。米の他、大工道具の支援にとりわけ大いに感謝されています。



左は知らない所から流れ着いた建物とか

◇これぞ復興の旗印



気仙沼市建設職組合で



気仙沼に大工道具を

復興の旗印を 掲げよう

全国から寄せられた米。さながら地域ブランド米見本市です。

岐阜支部会員、妙高市の家'Sハセガワさん、長野松本地区会員から大工道具が気仙沼市の会員・かねき建設及び気仙沼建設職工組合に支援がありました。かねき建設社長の「家や工場と一緒に大工道具一式を流されて、正直、仕事を辞めようと考えていました。しかし、この道具を目の前にしたら、急に気持ちが熱くなってもう一度やる気になったのです。本当に有難いことです」という言葉に職人の血を感じました。(会沢)